資料１

ミライの学校研究会提言
ー未来社会に生きる子どもたちのためにー

2025年10月３日（金）
＠岐阜市総合教育会議

岐阜市立小中学校の校長の有志が、現実の学校経営の傍ら、岐阜市教育委員会とともに「ミライの学校研究会」として、未来の学校の在り方を議論しました。

第１回　令和７年２月12日
第２回　　同３月12日
第３回　　同４月23日
第４回　　同５月７日
第５回　　同５月28日
第６回　　同６月25日
第７回　　同７月９日
第８回　　同７月23日

この研究会での議論のまとめとしての提案が本資料です。本資料の内容は、現在の学校経営において生かしていくとともに、将来の国、県、市での政策議論の一助となることを願っています。

岐阜市をはじめとしたすべての子どもたちが、学校で伸びやかに学び、将来の自分の夢や希望を育むことができますように。

ミライの学校研究会参画者一同

「ミライの学校」として目指す学校像

時代の変化、日本の教育課題を踏まえれば･･･

真に子どもが主語になる学校

包摂
児童生徒一人一人の生命の尊厳が大切にされ、
多様な児童生徒すべてを包摂する

安全・安心
児童生徒一人一人に居場所がある

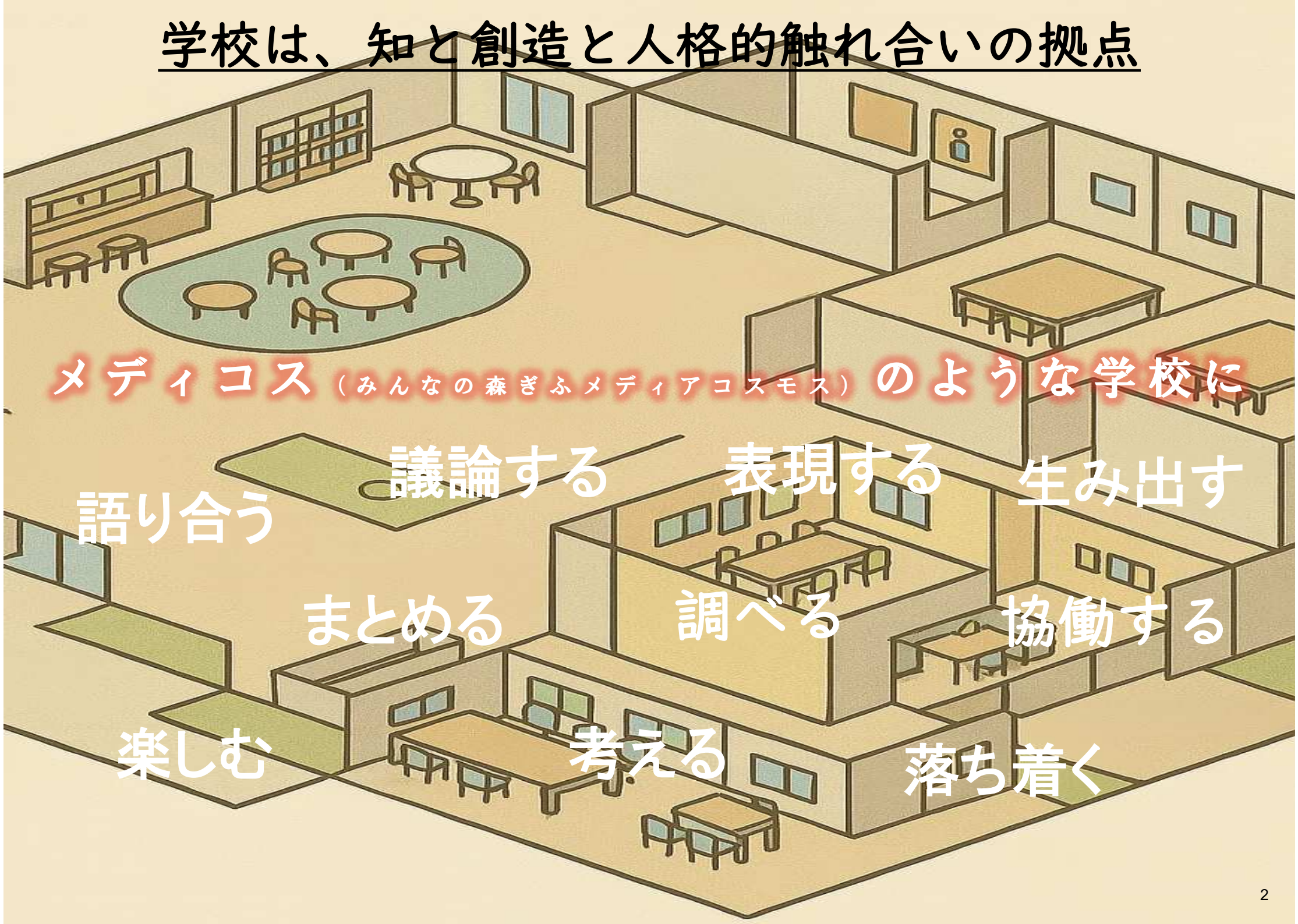
学びの楽しさや喜び
知る／できるは楽しいことと感じられる

対話
子どもなりの考え方やみんなの考え方を聞いて学びを深める

選択と行動
子どもなりに考える、子ども自身が選ぶ、やってみる

社会性の伸長
みんな同じでなければならないや同調圧力から ⇒ 協働、
「迷惑をかけない」という程度の考え方でもいいのではないか

学校は、知と創造と人格的触れ合いの拠点



1　現状の課題

これまでの社会

工業化社会　大量生産　大量消費
巨大化する都市環境　指数関数的な人口増
経済成長　新卒一括採用・年功序列

急激な
社会変化

今、これからの社会

新たな価値創造　イノベーション　SDGｓ
Society5.0　DX　一人ひとりの多様な幸せ
well-being　地球規模課題　多様性
安全・安心　AI　人材の流動化　総合知
マルチステージ型人生

社会を支える教育・人材育成

同質・均質性・一律一様の教育・人材育成
みんな一緒に　みんな同じペースで　みんな同じことを

1．一斉・一律の教育
- 同じ学年の子どもが、同じ教科書で、同じ時間割で、同じ授業を受ける。
- 「標準児童（平均的な子ども）」を前提にカリキュラムを設計
- 学年制（年齢）に基づき、学びのペースや内容を固定化

2. 教科主義・学力偏重
- 教科ごとのペーパーテストによる評価が中心
- 内申点によって進学や就職が左右されるため、評価が画一的

3. 管理・統制型のカリキュラム
- 運営学校は文部省（現文科省）や教育委員会の方針に厳格に従って運営
- カリキュラムの独自性よりも統一化された指導計画

変化しない教育が生み出した影響

＜子供への影響＞
○学力格差の拡大
○子供たちの自己肯定感の低さ
○不登校・ひきこもりの増加
○変化に弱い労働力の育成
○デジタルリテラシーの不足（教員による格差）
○ジェンダーや多様性教育の遅れ（減少しないいじめ）

＜学校への影響＞
○教員の長時間労働・多忙化
○教員不足・人材確保の難しさ
○学校組織の硬直化・マネジメント不足
○ハラスメントや職場環境の問題
○ICT活用・デジタル教育への対応遅れ
○多様な児童生徒への対応力不足

ミライの学校研究会　コンセプト（必要な条件）

（1）教育課程の在り方

（2）授業の在り方

（3）学校生活の在り方

（4）校種間連携の在り方

（5）教師の在り方

（6）地域との関わり方

（1）教育課程の在り方

包摂　学びの楽しさや喜び　対話　選択と行動

１．目指す方向性

①子どもが、必要なときに自在に使うことができる学力の育成を目指す
　－良質なコンテンツを基盤とした資質・能力の育成
　　－単なる知識や技能の習得ではなく、「中核的な概念」や意味理解の追究を目標へ
②子どもが、興味・関心や自己の課題に応じて教科の枠を超えて学びを発展させていく
③子どもが興味・関心に応じて、休日等に学校外で行う探究活動の教育課程上の位置付け

２．具体的取組

１．学校の最上位目標の見直しと共有化

〇現代社会で必要な力を育むための学校教育目標の見直し（自律、共生、創造）と学校（職員・児童生徒）・家庭・地域での共有化
〇学校全体で目指す方向性を教職員全体で考え、何をすべきかを議論するプロセス、学校全体の目標の議論のプロセスの徹底

２．「探究」と「教科等」の往還を組織化

〇探究的な学習の導入
　総合的な学習の時間だけでなく、教科にも「問いを立てる・試行錯誤する・振り返る」要素を内在化させる
〇生活科の中学年以降への拡充
〇総合や探究の教科書の作成

３．地域・社会とつながり学習・社会を創る

〇社会に開かれた学び
　地域探究、職場体験、地域課題解決プロジェクト等、実社会と関わる学習活動の充実
〇異年齢・異文化との協働学習
　異年齢授業（道徳や特活）、異年齢生活（朝の会、帰りの会、掃除）、学校内外の人々や他校の生徒、留学生との共同探究

４．子どもが「学びの主人公」となる環境づくり

〇自己調整学習の支援
　標準授業時間を短くし、授業時間外で自由に使える帯学習時間の創出
〇評価を一人ひとりが「学び続けるための評価」へ。点数主義でなく、「どんな力がついたか」、「次に何が必要か」を示す評価へ

（2）授業の在り方

包摂　学びの楽しさや喜び　対話　選択と行動

1．目指す方向性

子どもたちが自分の力を自覚し、伸ばせる授業に！

①学びの目的の見極めと使い分け

知識・技能…自分で学ぶ、input中心（反転学習）　　ICTのフル活用

思考力、判断力、表現力…協働的に学ぶ、output中心

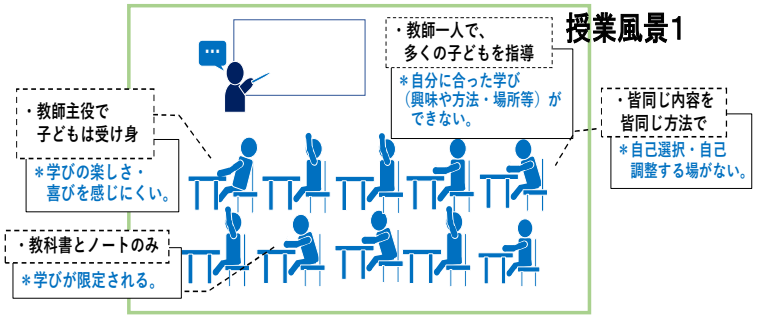
②一斉指導と個別指導のバランスの考慮。自立した学習の促進（例：単元内個別進度学習の導入）。それらの前提となる教師の出番の明確化

③子どもにとって学ぶ価値や目的を伝える。「ねらい」を明確にした授業

④学習評価をもっと子ども主体のものに。

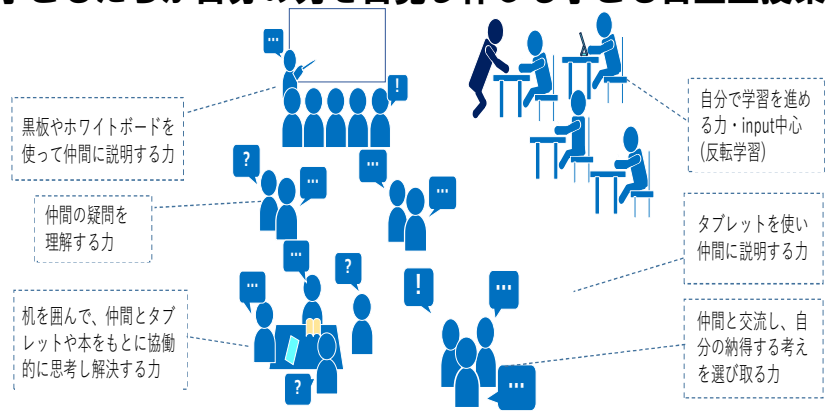
2．具体的取組

単なる知識・技能の習得に重きを置いた授業
（教師主導型授業（一律一斉授業））



子ども主体の学びへの転換

良質なコンテンツを基盤とした資質・能力を育成する授業
（子どもたちが自分の力を自覚し伸びる子ども自立型授業）



1．いつでも学べる教科別教室(スペース)の整備

英語ルーム：英語の本やアニメ動画が見られる
社会ルーム：地図や歴史のカードゲームがある　等

3．教員数増員

多様な児童の包摂のためには、子どもに関わり見守る大人が必要

2．学級編制の弾力化

35人１学級から子どもの人数ベースの教員配当へ

4．教師の専門性の向上

小学校でも教科担任制の本格的導入

5．多様な大人の参画

子どもの学びを広げる校外の専門家、関係機関の積極的活用

（3）学校生活の在り方

包摂　安全・安心　選択と行動　社会性の伸長

１．目指す方向性

①子どもが安全安心に過ごせ、決められた規律を守ることを重視する取組から、規範意識を高め、学校生活をつくり出す取組へ
②子どもが決められたプログラムをやり切る集団活動（野外学習、運動会等）から、子どもがプログラムを創り出す活動へ

子どもが学校づくりに参画する

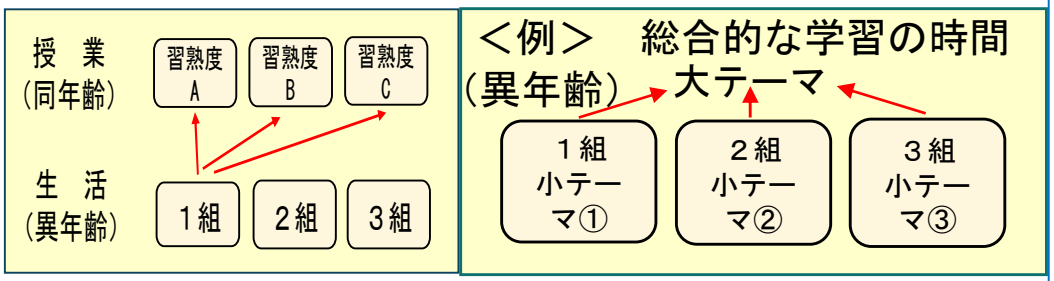
２．具体的取組

１．児童生徒主体のルールメイキング

ルールを疑うことなく従うのではなく、多様な視点から生徒自身が考え、決定する経験を通して、規範意識を高めるとともに、将来、自分たちを取り巻く社会環境をデザインする力を養う。

２．多様性を認め合い生かし合える環境づくり
―異年齢集団による学級編制と同年齢による習熟度別学習―

発達段階の異なる異年齢で学級を編制することで、多様な価値観に触れ、社会性を養う。また、授業については、同学年の習熟度別学習を行うことで、他者と協働しつつ、個別最適な学びができるようにする。



３．児童生徒の主体性を重視した行事（特別活動）改善（児童生徒中心の学校づくり）

教師が教える→子ども達が学ぶ
発問重視　　→疑問重視
同化　　→多様性重視
へシフトし、創造的な課題発見・解決力を育成

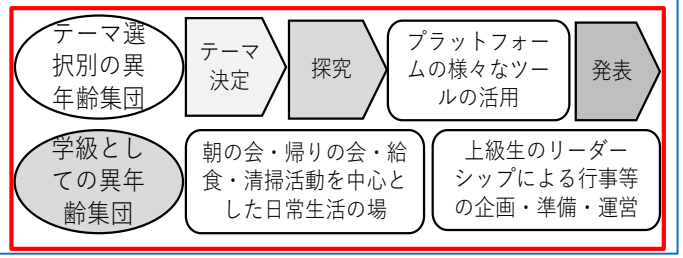
１　児童・生徒主体の取組による行事の活性化

行事の見直し → 児童・生徒と教職員による委員会の設置 → ねらいの見直しと自己決定 → 新たな活動の創造や変更 → 多様な組織を生かした取組

（例）・合唱祭と文化祭のコラボレーション　・全校パネルディスカッション　・地域ふれあい活動への児童会の参加

４．異年齢学級を基盤とした学級編制の工夫

異年齢集団によるグループワーク、ディスカッション、探究、プロジェクト型学習などに積極的に参加・協働し、多様性のよさに気付いたり自己有用感を高める。



（4）校種間連携の在り方

包摂　安全・安心　選択と行動　社会性の伸長

１．目指す方向性

①子どもが、校種間を越えて、自分の学びや成長を捉えることができるポートフォリオ、キャリアパスポートの活用
②子どもが、学校への誇りと愛着をもち続けることができる義務教育学校や幼小中一貫校の創設

２．具体的取組

１．校種間・学年間のしなやかな接続と連携

校種が変わっても一貫して子どもを知る、伝える。接続（カリキュラムや実践のつながり）と連携（職員同士のつながり）で、教員が入れ変わっても一貫性のある支援。

〇学びのカルテとしてキャリアパスポートの活用
　市内共通様式でタブレット端末（ロイロノート）に保存。作品等は画像(ポートフォリオ的に)保存。子どもが見返す。教員が閲覧する。
〇個人カルテの活用
　校務支援システム上に市内共通様式のカルテ作成。
　家庭環境情報や生徒指導履歴も引き継ぐ。教員のみ随時、加筆修正、閲覧可能とし、切れ目なく課題及び情報の共有を図る。

２．15年間を見通したカリキュラム構成や教育システムの構築

〇幼・保から中までの発達の様相を踏まえた一貫性のある支援により、育成すべき資質・能力の確かな育成
〇幼・保からの自立的な学びの習慣を、小中にも取り入れることで、自らの人生を舵取りする力を育成
〇継続的な見取りによる個別最適かつ伴走的な支援によって、多様性に応じた成長の姿を目指す。

（5）教師の在り方

包摂　安全・安心　学びの楽しさや喜び　対話　選択と行動　社会性の伸長

１．目指す方向性

①教師の役割…親以外の最も身近な大人のモデル。人間力に溢れる教師（子どもがあこがれ、モデルとする教師像
②子どもが生活する場所すべてを学びの場と捉え、地域とともにある学校－学ぶ場所は、普通教室に限られない（フリースペースやオンラインなど）

２．具体的取組

１．子どもが憧れる親以外の最も身近な多様性のモデルに

SpecialistとHumanityを兼ね備えた教師の育成、そのための勤務時間の弾力化。

Specialist…使命感を持つ教師、指導力ある教師、学び続ける教師、子どもの水先案内人・伴走者たる教師
Humanity…子どもへの職業的愛情とやさしさを持つ教師、人間的魅力にあふれる教師、信頼できる教師、懸命に人生を生き謳歌する教師

２．教室以外でも学べるように

〇子どもが学び方を選ぶことができる。
〇市内の学校の日課を統一し、各学校が特色ある教育を実施し、子どもが在籍学校以外の授業もオンラインで参加できるようにする。

３．地域とともにある学校の具現
—地域の大人がどんどん参画

〇校内に保育所を設置（育休中も勤務できる体制、幼保小の連携）
〇地域連携コーディネーターを学校の管理職以外に委嘱（学校管理職がすべてを抱え込むことをしない）
〇給食を食堂扱いに（配膳、アレルギー対応、マナー指導等すべて専任の地域人材で対応。教員の昼の休憩時間を確保する。）

（6）地域との関わりの在り方

包摂　学びの楽しさや喜び　選択と行動　社会性の伸長

１．目指す方向性

①子どもの興味・関心、子どものセーフティネット・居場所づくりとして、様々な機関・団体（公的機関のみならず、企業・民間施設含む）の特質を生かした連携・協働の推進
②子どもが地域の大人に進んでかかわることができるよう「子ども発」の地域連携・協働活動の工夫。「子どもを主語」にした地域連携・協働活動

２．具体的取組

１．子どもの興味・関心や安心できる居場所づくりのための連携・協働

・公的機関・民間団体・地域住民との連携・協働体制の構築
・子どもの興味・関心に応じた活動（科学、アート、スポーツなど）の提供
・地域ボランティアによる見守り活動や学習支援の拠点化
・地域資源（ひと・もの・こと）を活用した体験活動

２．「子ども発」の地域連携・協働活動の工夫

・子どもが企画・運営に関わる地域イベントの支援（子ども祭、地域探検など）
・地域の大人との対話の場づくり（ワークショップ、インタビューなど）
・授業と連動した地域課題の探究活動の推進（総合的な学習の時間の活用）

学校施設は「子どもを主語」にした地域社会の交流拠点としての活用へ

ミライの学校研究会参画者

R７　　中村 有希（長良東小）

清水 也人（岐阜小）　平川 正夫（明郷小）　河合 清太（梅林小）

永井 浩司（日野小）　芳賀 雅俊（長良小）　石神 康晴（鷺山小）

遠山 健二（則武小）　山田 哲也（黒野小）　武藤 広朗（鶉小）

寺田 武義（西郷小）　服部 晃幸（長良西小）　石田 耕太郎（三輪南小）

棚橋 英生（網代小）　酒井 立人（長森西小）　種田 伸和（芥見東小）

各務　至（岩野田北小）　下入佐 浩三（柳津小）　鷲見 和也（岐阜清流中）

村山 邦博（加納中）　鷲見 紀子（三輪中）　平塚 剛（青山中）

松岡 猛（藍川東中）　寺田 幸広（岐阜西中）　佐々木 喜秀（長森南中）

星野　健（東長良中）

R6　馬淵 勝弘（加納西小学校）小野島 孝（柳津小学校）　松巾 昭（長良中学校）

論点整理

●本日は、主に**以下の事項**について、**ご協議**いただきたい

●岐阜市の未来の学校の在り方とそれを実現するために必要なことについて